

Tea Time



無料配布

special issue

患者呼出機が
患者向けスマートフォンアプリに
変わります！



Topics

日赤の『dERU』～もしもの時の備え～

専門看護師・認定看護師の知恵袋

脳卒中を疑ったら一刻も早い受診が大切です
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 暮松咲

ママと赤ちゃんのHAPPY BIRTH ROOM

助産師チームによる継続ケア

～産み育てる力を引き出す伴走者～

5B周産母子ユニット副看護師長 水村友香

スマイルレシピ

かぶのレモンマリネ

栄養課 内田奈那

日赤医療センターの理念

わたしたちは人道・博愛の赤十字の理念に基づき
人間のいのちと健康、尊厳を守り
質の高い医療を提供します

患者呼出機が

患者向け スマートフォンアプリ

に変わります！

2023年3月22日から、
外来診察・検査時の患者さんの呼び出し方法であった
患者呼出機の使用を廃止し、患者向けスマートフォンアプリ
「HOPE LifeMark コンシェルジュ」（以下、アプリ）に変更となります。
今回は、「アプリ」の主な機能や登録方法についてご紹介いたします。

診察状況お知らせ機能

各診療科受付
の診察状況表示
盤と連携し、以
前の患者呼出機
と同様に診察の
待ち状況を通知
します。

まもなく診察
となることをス
マートフォンへ通知しますので、通知が来るま
でお好きな場所でお待ちいただけます。通知が
届きましたら、診察室前の中待合にてお待ち
ください。



アプリの主な機能

アラートリマインド

予約日4日前の14時ごろに
に、診察・一部の検査予約等
をスマートフォンへお知らせ
します。

検査のお知らせでは、検査
を受ける際の留意点も併せて
お伝えします。

アプリの通知設定をOFF
にすると、通知が届きませんの
で、通知許可をお願いします。

○月○日は
検査日です
禁止事項に
ご注意下さい



予約確認

直近1年間の診察・検査予約内容を、アプリ
上でいつでも確認できます。

予約票を紛失した場合でも、安心です。

家族登録

スマートフォン1台で、ご自身に加えて、ご
家族の「診察状況お知らせ」「アラートリマイン
ド」「予約確認」を一括管理することができます。
当センターを受診したことがない方でも、家
族登録することができます。

利用医療機関登録について

登録窓口

2階…医事課窓口 / 2～4階…各診療科窓口

受付時間

8:30～16:30

登録申請に必要なもの

- ✓ 患者さん本人の診察カード
- ✓ 申請者の健康保険証

もしくは、公的機関が発行した身分証明書等

マイナンバーカード、運転免許証等、旅券（パスポート）、在留カード、特別永住者証明書、外国人登録証明書（在留資格が特別永住者のものに限る。）

院内の登録窓口にて、アプリ利用開始に必要な二次元コードを発行しています。

登録申込みできるのは、原則、患者さん本人となります。

患者本人が未成年であり、ご家族等が申請者となる場合も、患者さん本人の同席が必要です。

登録窓口で発行する二次元コードを持ち帰ると、ご自宅で登録手続きを行うことができます。

自宅での家族登録

本アプリ登録済みの患者さんは、本アプリ上で家族登録共有二次元コードを表示させ、医療機関での手続きなしに家族登録を実施できます。

留意点

● アプリをダウンロード済みであれば、スマートフォンのカメラ機能から登録用二次元コードを読み込むこともできます。

● 外来受診時は、スマートフォンのお知らせが鳴るようにしてください。

通知音が鳴らないと、診察状況お知らせが届

いても気がつかないことがあります。

● 各画面の情報読み込みに時間がかかることがあります。画面が表示されるまで少しお待ちください。

● 家族登録した方は、患者本人の承諾なしに別の方を家族登録させることができます。

この点をご理解のうえ、家族登録を許可してください。

登録することで今までより便利に

患者向けアプリをご利用いただくと、以前の患者呼出機と同様にお好きな場所でお待ちいただけます。また、診察・検査予約をいつでも確認することができます。ど、便利機能もあります。

受診時に持参されている診察カードと健康保険証だけで簡単に登録申込みができますので、ぜひ、患者向けアプリをご利用ください。
登録手続きでお困りの場合は、2階医事課窓口へご相談ください。

よくあるご質問や

詳しい登録方法は、当センターホームページをご確認ください。



次のページで
一緒に登録してみましょう

4STEP で簡単登録！

STEP 1 アプリをダウンロード

スマートフォンで下の二次元コードを読み取ってください。

iPhoneの方



Androidの方



読み取れない方は、App StoreもしくはGoogle Playで「HOPEコンシェルジュ」と検索してください。

検索 HOPEコンシェルジュ

STEP 2 二次元コードをスキャンして利用者登録

登録窓口にて本人確認のうえ、登録用二次元コードを印刷した紙をお渡しします。



「初回の方はこちら」をタップ



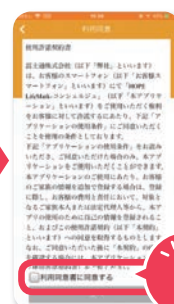
「次へ」をタップするとカメラが起動



二次元コードをスキャン

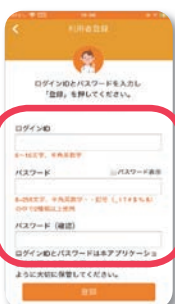


利用者情報を確認し、「次へ」をタップ



同意書(2種類)にチェックをします

STEP 3 ログインID・パスワード入力



ログインID/パスワードを決めて、入力します

パスワードがわからなくなった場合、当センターでの再登録が必要です

◆ログインIDとパスワードは以下の内容で設定してください。

ログインID：
半角英数字6文字以上16文字以内
パスワード：
半角英数字・記号混在で8文字以上

STEP 4 ログインして利用開始



STEP③で入力したログインID・パスワードを入力します

ログインから24時間経つと自動的にログアウトします。「ログイン状態を保持する」にチェックをつけると、次回からログインが省略できます

「安全川柳コンテスト」の 結果発表

医療安全推進室



医療安全推進室長の宮内副院長(右)と
金賞を受賞した薬剤師の加藤さん(左)

日頃より当センターの医療安全活動にご協力いただき、ありがとうございます。

医療安全推進室では、すべての患者さんに安全で安心な医療を提供するための体制づくりを行っています。院内の医療安全においては、職員のみならず、一般利用者の皆様のご協力も不可欠なものとなっております。

そこで当センターでは、利用者の皆さんにも医療安全についてもっと知っていただくこと、参加していただくことを促進するため、「安全川柳コンテスト」を開催しました。院内スタッフを対象に医療安全に関する川柳を募集し、その中から厳選された10作品を1階総合案内前に掲示して、利用者の皆さんにも審査投票に参加していただきました。投票の結果、以下の作品が選ばれましたので、ご紹介させていただきます。

金

思い込み 大きなミス を誘い込み

(薬剤師 加藤淳平)

〈解説〉 思い込みが大きな事故を起すこともあります。きつと大丈夫だろう、そうだろうと思いつまらずに、なんでも確認することを心掛けたいです。

銀

やる前に 急いだ時ほど ひと呼吸

銀

再確認「言ったつもり」と「見たつもり」

銅

まあいいか その油断がいのちとり

銅

おかしいな そう感じたら 再確認

銅

報連相しやすい 空気作ってこ



たくさん投票いただき、ありがとうございました！

職員の医療安全に対する思いについて触れていただいたことで、利用者の皆さんにも医療安全について知っていただく機会になったと思います。入賞した作品は、作品解説を載せてポスターにし、今後院内に掲示していく予定です。よろしければその際にまたゆっくり御覧ください。

今後も安心安全な医療のため職員一丸となって医療安全に取り組んで参りますので、利用者の皆さんにもより一層のご理解とご協力を賜りますよう、よろしくご願ひ申し上げます。

日赤の『dERU』 ～もしもの時の備え～

令和4年12月3日(土)、当センターに隣接する日本赤十字看護大学前の広場で、国内型緊急対応ユニット＝domestic Emergency Response Unit、通称『dERU(デルー)』の訓練を行いました。訓練には職員37名が参加、行政や地域の関係者も見学に訪れました。

一般には聞き慣れないdERU。dERUは、日本赤十字社(以下、日赤)特有のもので、大規模災害時などに救護所を速やかに立ち上げるため、日赤の国際救護部門が使用しているERU(Emergency Response Unit)を参考に、日本国内向けに作られました。国際救護のERU装備は、派遣される国際救護要員の宿泊施設なども備えている多機能なものに対し、国内向けのdERUは救護所運営に焦点をしばり、最小限の資器材にとどめたシンプルな装備です。その資器材と輸送車両、運用する要員、運用ルールなどを総称して、dERUと呼んでいます。

現在のdERU車両



dERUの車両は、全国の日赤施設に17台が整備されており(令和4年4月現在)、そのうちの1台が当センターに配備されています。車両に積載されているコンテナには、大型エア Tent(大きさ:縦9m×横9m×高さ4m、重さ:約200キロ)、医療物品、発電機、事務用品、通信機器などの資器材が納められ、初期の装備で1日150人の傷病者を3日間診療できるとされています。シンプルな装備とはいえ、車両自体の総重量は8トン、頑丈なケースに保管された医療物品は数十キロの重さがあり、取り扱いには注意を要します。資器材を安全に取り扱い、救護所を立ち上げるために職員は一定の研修・訓練を受けることが必要とされ、その一環として今回の訓練が行われました。

dERUが初めて実災害で派遣されたのは、平成16(2004)年10月の新潟県中越沖地震です。その2年前にdERUが整備

初代dERU車両@新潟県、現在の2代目車両と形が異なり、トラックの荷台にコンテナが載せられています



コンテナ降ろし作業
フックロールと呼ばれるアームでコンテナを降ろします



救護所用の資器材



石巻赤十字病院前に展開した当センターのdERU Tent



12月3日訓練の集合写真。訓練終了後にパチリ



東日本大震災時の診療の様子



新潟県中越沖地震(2007年)
被災地の子どもと看護師

され研修が行われており、日赤で初のdERUによる救護活動には当センターの車両と要員が派遣されました。新潟県小千谷市内の小学校校庭を借り、大型エア Tentを設置。仮設の救護所として被災者支援にあたりました。平成19(2007)年7月の新潟県中越沖地震でも同様に当センターのdERUを派遣、救護所を設置しています。最近の派遣は、平成23(2011)年3月の東日本大震災です。震災当日の3月11日夕方当センターを出発、数時間かけて被災地に入り、翌3月12日に宮城県石巻市の石巻赤十字病院前に救護所を立ち上げました。震災によって、けがをした人、常備薬を失った人、心身の不調を感じている人など、多くの人が救護所を訪れ、もともと多い日で200名以上、12日間で1400名以上を診療した記録があります。また、延べ60名近い職員が救護所の運営に携わりました。※注1

今年は大正12(1923)年の関東大震災から、ちょうど100年を迎えます。関東大震災では、犠牲者が10万人を超えました。この時も日赤は救護活動を行っており、外部のWEBサイト「関東大震災映像デジタルアーカイブ」には、当センターの前身・日本赤十字社病院とされる建物に負傷者が運ばれてくる様子が映像で残されています。このような災害が起きないことが一番ですが、日本は自然災害の多い国です。いつ起きてもおかしくないと言われている首都直下地震や南海トラフ地震が現実となった時は、dERUによ

る救護所が必要とされるかもしれません。もしもの時の備えとして、当センターではdERUの訓練を続けています。新型コロナウイルスの流行前、一般公開の防災イベントなどに参加し、職員以外でもdERUに触れる機会を設けていました。dERUを通して、多くの人が災害時の行動や日ごろの備えを考えるきっかけとなれば、それもdERUの大きな役割と思います。

※注1
当センターのdERU救護所における日数・人数のみであり、被災地の一般的な救護所における巡回診療の日数・人数は含まれていません。



宮城外苑に設置された
日本赤十字社救護所



日本赤十字社病院に
おける救護活動



関東大震災映像
デジタルアーカイブ
トップページ

関東大震災映像デジタルアーカイブは、国立映画アーカイブが運営するWEBサイトです。長篇記録映画『関東大震災火災実況』※をはじめ、関東大震災に関連する映像が公開されており、その一部に日赤とされる映像を見ることができます。

※震災時の映像です。不安を感じる方は視聴をお控えください。



資器材の搬出。職種関係なく協力します



重量のある保管ケース



テント設営中



発電機の操作訓練



訓練時に資器材のメンテナンスも行います

衛星通信機器。携帯電話等が使用できなくなった時の重要な通信手段



完成したテント

専門看護師・
認定看護師の

知恵袋

24



脳卒中を疑ったら 一刻も早い受診が大切です

脳卒中ってどんな病気？

脳卒中とは、脳の血管の異常により脳細胞が障害を受け、さまざまな症状が突然生じる病気です。軽症から重症と幅はあるものの、日本人の死因第4位、寝たきりの原因第1位であり、生命が助かっても、脳のダメージにより手足の運動麻痺や言語の障害など後遺症が残ることが多いです。

脳卒中には、脳の血管が血栓で詰まる「脳梗塞」、脳の細い血管が破れる「脳出血」、脳の太い血管の一部が膨らんだコブ（脳動脈瘤）が破裂し脳表面に出血が広がる「くも膜下出血」があります。最も多いのが「脳梗塞」で、全体の約7割を占めます。発症後、すぐに専門的な治療とリハビリテーションを受けることで症状の改善、あるいは悪化をくい止められる可能性は広がり、後遺症を抱えたとしても生活を再構築し、その人らしく過ごしている方は大勢います。後遺症へのリハビリ効果は発症3カ月以内が一番期待できるとされ、病状の安定化を第一に図りつつ、早期にリハビリ専門病院に橋渡しを行う医療連携も重要視されます。

脳卒中の原因は？

原因の多くは、高血圧、糖尿病、高脂血症などの生活習慣病や、喫煙、過度な飲酒によって老化し細くもろくなった脳の血管に、脱水や血圧上昇などの要因が重なることで発症します。脳梗塞の場合、心臓の不整脈も血栓の原因となります。発症と再発の予防には、生活習慣病の管理や不整脈の治療はかせません。

覚えておくべき！

脳卒中を疑う典型的5症状

共通する特徴は、突然生じることです。脳卒中は重症の場合、生命の危機に直結しかねません。また、発症から時間が経つと出来ない治療もでてきます。少しでも治療が遅れると、回復する可能性があった部分にも病気が進行し、後遺症がより重く残るため、治療は一刻を争います。脳卒中を疑ったら、様子を見ることはせず、迷わず救急車を呼ぶなどしてすぐに専門病院を受診しましょう。症状が一時的に治ったとしても、脳卒中の前兆となる危険なサインの可能性もあるので、放



脳卒中を疑う典型的5症状(参考)公益社団法人 日本脳卒中協会

当センターにおける
脳卒中の患者さんへの支援

発症により、心構えもままままたり前にできていたことがある日突然できなくなることで、自分の身体ではないように感じる怖さや、今後の生活や再発への不安は生じやすいです。当センターでは脳卒中療養相談士を育成し、ご本人やご家族のお困りごとや心情に寄り添い、日常生活や社会復帰に向けた支援、再発予防に関する助言など、入院中から退院後の外来におけるまで、多職種でサポートする体制を整えています。お気軽に主治医や、病棟・脳神経外科外来の看護師にご相談ください。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師



脳卒中患者の重篤化を予防するためのモニタリングとケア、活動性維持・促進のための早期リハビリテーション、急性期・回復期・維持期における生活再構築のための機能回復支援などの専門的知識や技能を持つ。

● 専門看護師

(CNS : Certified Nursing Specialist)
患者・家族に起きている問題を相対的に捉えて判断する力と広い視野を持ち、分野ごとの専門性を発揮しながら、施設全体や地域の看護の質の向上に努める。

● 認定看護師

(CN : Certified Nurse)
患者・家族により良い看護を提供できるよう、分野ごとの専門性を発揮しながら看護の質の向上に努める。

ママと赤ちゃんの

HAPPY BIRTH ROOM

周産期の育児支援

50

助産師チームによる継続ケア ～産み育てる力を引き出す伴走者～



今号では、助産師が妊娠期から産後まで妊婦さんを継続的に支援する「助産師チームによる継続ケア」を紹介します。

当センターでは、「赤ちゃんとお母さんにやさしい病院」として、母子の安全を見守りながら、女性の産み育てる力を引き出し、赤ちゃんの生きる力・育つ力を支える支援型医療を提供しています。助産師が継続的に支援を提供する仕組みは、1997年全国に先駆けて「マザーケア外来」という名称で始まりました。2005年からは、医師と助産師が協働して妊婦健診を行うことで、ハイリスク妊婦の健診にも助産師のケアを提供できるようになりました。医師は異常の早期発見、助産師は妊婦の生活に寄り添い、産み育てる力を引き出す支援型ケアの提供に努めています。

継続ケアとは

産後に赤ちゃんとお母さんが笑顔で過ごすためには、妊娠中からお母さんが安心して育児ができる環境を整えることが重要です。助産師2～3名がチームとなり、1人の妊婦さんの心身を妊娠期から産後健診まで継続的に支援しています。「初めてで分からないことばかり」「顔見知りの助産師がいると安心」「妊娠・出産・産後について、もっと色々なことを知っておきたい」という思いをもつ妊婦さんは数多くいらっしゃいます。複数回お会いするうちに、小さな困りごとや不安な気持ちを助産師に相談していただけます。そのような中、胎動やお腹の張り、冷え、体重など、身体

の状態を妊婦さん自身がセルフケアできるように支援します。また環境の調整には、医師だけでなく薬剤師、ソーシャルワーカー、地域で働く助産師や保健師との連携も不可欠です。医療チームの協働と地域連携で妊婦さんを妊娠期から育児期まで切れ目なく継続的に支援できる体制を整えています。

産み育てる力を引き出す伴走者

実際、私が担当をした妊婦さんは、妊娠・分娩に大きな恐怖と不安を抱えていらっしゃいました。チーム健診が始まる24週頃から担当させていただき、勤務の調整がつく限り、健診に付き添い、エコーやNSTモニターでの胎児の成長や自身の身体の変化に気づいてもらえるような支援をしました。そして、妊婦さんの頑張りを認め、労う言葉をかけ続けました。すると、妊婦さんは会う毎に笑顔が見られ、出産・育児に前向きになり自信が持てるようになったようで、「自分が母親になれるのか不思議な感覚だけど、大丈夫な気がする。頑張る」と話してくれました。

多くの妊婦さんは、妊娠に関すること以外にも、ご家族や上のお子さんのこと、仕事との両立など、さまざまな悩みや不安を感じながら生活されていると思います。助産師は、妊娠生活や出産・産後の育児まで、女性と家族の近くで伴走するケアを大切にしています。さまざまな思いを助産師と共有することで、かけがえのない大切な時期を安心して過ごしませんか。お気軽に産科外来助産師にお声かけください。

助産師外来での様子



妊娠中から出産・産後の育児についてお話ししましょう



5B周産母子ユニット
副看護師長
水村 友香
Yuka Mizumura



当センターの栄養課の職員がおすすめる体にも心にも優しい、食べたら思わず笑顔になってしまうようなレシピを紹介するスマイルレシピ!

第7回は、内田奈那管理栄養士が紹介する「かぶのレモンマリネ」です。

Recipe

かぶのレモンマリネ

ビタミンCやβカロテンを補給

材料 (1人分)

- かぶ…1個
- かぶの葉…10g
- レモン(国産)…1個
- 塩…少々
- オリーブオイル…小さじ1
- はちみつ…小さじ1/2



作り方

- ① かぶは皮をむいて薄くいちょう切りにし、かぶの葉はみじん切りにして塩少々を混ぜ、しんなりしたら水気をよく絞る。
- ② レモンはよく洗い、半分は薄切りに、残りは絞っておく。
- ③ ボウルに①のかぶ、かぶの葉、②のレモン、オリーブオイル、はちみつを入れて良く混ぜる。

栄養成分(1人分)

エネルギー 80kcal
たんぱく質 1.1g
脂質 4.4g
食塩相当量 0.5g

使用する食材の効果

かぶは冬に旬を迎え、根も葉も活用できる食材です。根の部分にはビタミンCやアミラーゼとよばれる分解酵素が含まれ消化を助けてくれる働きがあります。また、葉の部分にはβカロテンやビタミンC、鉄、カリウム、カルシウムなどが豊富に含まれており、中でもβカロテンやビタミンCは抗酸化作用があり生活習慣病の予防効果が期待できます。βカロテンは脂溶性ビタミンなので油と一緒に摂ることで身体への吸収が高まります。かぶの栄養は加熱すると効果が半減するため生のまま食べるこちらのレシピがおすすめです。



栄養課
内田 奈那
Nana Uchida

「ブルーリボンキャンペーン」と「AYA week 2023」2つのがん啓発イベントを行いました！

当センターでは、2月から3月にかけて、「ブルーリボンキャンペーン(大腸がん啓発活動)」と「AYA week 2023(AYA世代のがんの啓発活動)」の2つのがん啓発イベントを行いました。

◆ブルーリボンキャンペーン

3月の「大腸がん啓発月間」に、ブルーリボンキャンペーン(大腸がん啓発活動)を開催しました。

2019年度に日本で新たに大腸がんと診断された人数(罹患数)は、男性約9万人、女性約7万人と、臓器別にみると男性、女性ともに2番目に多いがんとなります。また、日本人のがんになる割合(罹患率)も、大腸がんは男女ともに臓器別で上位を占めます。

日本人の死因で最も多い病気はがんで、その中でも大腸がんは、臓器別の死者数で上位に入ります。しかし、大腸がんは早期の段階で治療を行えば、高い確率で完全に治すことができます。大腸がんは早期の段階では症状を自覚することがほとんどないので、早期に発見するために40歳以上の方は定期的に検診を受けることがすすめられています。

大腸がんで命を落とす方を一人でも減らせるよう、本イベントを開催し、早めの検診・治療への理解促進に取り組みました。

外来のイベントコーナーでは、大腸がんを専門とする医師の顔写真を掲載したポスターの掲示や、パンフレット・パネルなどによる大腸がん啓発に関する情報提供を行いました。

また、大腸がんに関する来院者・職員の意識の向上を目的とし、来院者に青い葉型のカードに命や健康へのメッセージを記載してもらい、それを樹木がデザインされた台

紙に貼ってもらうことで「ブルーツリー」を制作しました。

その他、来院者参加型の「大腸がんクイズラリー」も行い、大腸がんの現状や大腸がん検診・精密検査に関する簡単なクイズに答えることで、楽しみながら大腸がんについて学ぶ機会も提供しました。

今後も、大腸がんをはじめ、疾患に関する啓発イベントを通じて、患者・地域住民の方々に保健・医療に関する情報を提供してまいります。

◆AYA week 2023

AYA week 2023(2023年3月4日～12日)は、AYA世代(15～39歳)のがんについて「知ろう、一緒に」をテーマとした社会啓発活動です。

本イベントは、一般社団法人 AYAがんの医療と支援のあり方研究会が主催となり、AYA世代のがん患者への応援フラッグを募集し、SNS等を通じて公開することで、多くの人々にAYA世代のがんに興味を持ってもらう機会をつくる取り組みを行っています。当センターは、AYA世代のがん患者を応援するためにこのイベントに協力、参加しました。



当センターで作成したAYA応援フラッグ

当センターで作成したフラッグは2月に外来1階イベントコーナー(総合案内前)に展示するとともに、ホームページを通じて当該イベント情報を発信しました。



たくさんの方のメッセージのおかげでブルーツリーが完成しました！

ご寄付

たくさんのご寄付や応援をいただきありがとうございます！

日本赤十字社医療センターへご寄付いただき、誠にありがとうございました。

皆さまからの貴重なご寄付は、新型コロナウイルス感染症への対応にかかる費用、医療機器・材料の購入費を含めた「病院事業運営資金」として大切に使用させていただきます。

ご芳志への感謝の気持ちを込め、ご芳名を紹介させていただきます。なお、許可をいただいた個人、法人および団体名のみを掲載しています。

株式会社システィーナ さま

佐々木 一浩 さま

金子 千賀子 さま

吉田 忠徳 さま

中村 玲子 さま

株式会社ウイング
黒鯛師義援金 さま

新潟県立小千谷高等学校
生徒会 さま

亀島 理広 さま

柳原 洋一 さま

久利 太郎 さま

吉田 得雄 さま

学校法人神愛学園
わかば幼稚園 さま

香川 百合子 さま

松田 和代 さま

株式会社ジャステック さま

※順不同



日本赤十字社キャラクター
『ハートラちゃん』

いつも貴重なご意見を ありがとうございます

皆さまのご意見を病院内の環境改善に
役立ててまいります！

ご来院の皆さまこんにちは、ご意見箱です。

今回は、設備、対応に関してご意見をいただきました。

1. 【設備】男性トイレ内に汚物入れの設置をお願いしたい（中央検査室内の採尿室への要望があった。高齢で治療上使用しているがどこに捨てたら良いのか困っている。設置してほしい）。

⇒順次、外来の男性、女性の区別なくトイレに汚物入れ（サンタリーボックス）を設置いたします。

2. 【対応】外来への電話が繋がりにくい。

⇒各診療科受付で互いに協力して電話を受けるように取り組んでおり、それでも対応できないときは、代わりとなる部署で話を伺い、外来担当者より折り返し連絡しています。

全般的に接遇において 各診療科、検査室、初診、会計等の窓口で質問すると強い口調で返されるというご意見をいくつかいただいています。各部署にご意見を提示し、改善に向けて情報を共有しています。今後何か気になる点がありましたら、ご意見箱へお願いいたします。



ご意見箱は
院内に15カ所
あります。

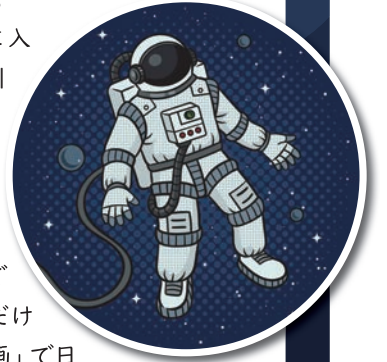
(外来6カ所、入院病棟
各フロア1カ所)

後期研修医 米田あゆ医師が 宇宙飛行士選抜試験に 合格しました！

当センター後期研修医の米田あゆ医師が宇宙飛行士選抜試験に合格しました。

日本人の宇宙飛行士の選抜は2009年以来14年ぶりに行われ、過去最多の4,127人の応募者の中から米田医師を含む2名が宇宙飛行士候補者として選抜されました。

今後は4月にJAXAに入社し、約2年間の基礎訓練を経たのち、宇宙飛行士として認定されます。宇宙飛行士として認定されれば、国際宇宙ステーション (ISS) での活動などに参画するだけでなく、「アルテミス計画」で日



本人として初めて月面に立つ可能性があります。当センターには、2019年に入職し、外科の後期研修医として小児外科や胃・食道外科などの診療科をローテーションし、専門的な知識をつけ専門医となるために業務に励んでいました。

当センターは3月末で退職となりますが、当センター職員一同、米田医師の今後の活躍を期待しております。

診察のご案内

月	火	水	木	金	土	日祝
○	○	○	○	○	休診	休診

● 外来休診日 …… 土曜日、日曜日、祝日、年末年始（12月29日～1月3日）、日本赤十字社創立記念日（5月1日）

● 受付時間 …… 予約のない方 **初診・再診 8：30～11：00**

予約のある方 **初診 8：30（初診受付開始）～予約時間の30分前**

再診 7：50（再来機開始）～予約時間の20分前

※ 受付時間は診療科によって異なりますので、事前に診療科受付へお問い合わせください。
また、初診の方は必ず「かかりつけ医からの紹介状」をお持ちください。

ご来院のときの持ちもの

- 診察カード：全科共通でご使用できます。紛失・破損した場合は、初診受付にて再発行できます。※再発行料：1枚220円（税込）
- 健康保険証：保険証の更新・変更時には必ず受診科受付にご提出ください。

代表 TEL：03-3400-1311

ホーム
ページ
のご案内

赤十字全般に関すること ▶ <https://www.jrc.or.jp/>

日赤医療センターに関すること ▶ <https://www.med.jrc.or.jp/>

※ 外来診療の最新スケジュールは、ホームページでご確認ください ※ 本誌のバックナンバーは、ホームページ上でPDF版をご覧いただけます

日赤医療センターのホームページはこちら ▶

